

### 3 各事務室報告

#### 3.1 図書館総務事務室

図書館総務事務室は、主に教育・研究計画書、自己点検・評価、4図書館運営の調整、図書や雑誌等の調達・受入・整理・登録・除籍、刊行物発行、図書館システム管理・運用、図書目録、統計調査、委員会等の会議運営、業務委託・電子資料等の契約、予算の要求・経理・決算、そのほか必要な庶務等を分掌するほか、理事会審議案件の上程、調達依頼等の学内手続き、学外関連団体との渉外業務等も担当した。『城市郎文庫目録』の出版が実現し、後記の西江雅之文庫、クリスチャン・ポラックコレクション、志田文庫等の整理も進捗した。江波戸昭コレクションは2017年度整理開始にむけて準備に着手した。予算逼迫から学内公募による高額資料の購入は無かった。

2009年度から明治大学東京国際マンガミュージアム（仮称）設置計画に関する事務、その先行施設として米沢嘉博記念図書館と現代マンガ図書館の運営を兼務している。2016年度から学長が構想するラテンアメリカ・プロジェクトの一環として、サンパウロ・ジャパンハウスへのマンガ資料寄贈に関する事務が増加した。マンガ関連業務の詳細は割愛するが、所要の要員・予算は補充されず、諸般の業務が人員・予算削減の中で遂行されている。

##### (1) 除籍及び廃棄

図書館図書管理規程第14条に基づき、資料の除籍作業を毎年定例的に行っている。2016年度も、例年どおり上期・下期の2回に分け実施した。上期は2016年9月に7,083冊、下期は2017年2月に3,233冊それぞれ実施し、合計10,316冊（簿外資料を含む）を除籍した。併せて管理形態変更として、上期に716冊を固定資産（固定）へ計上した。2010年度以前は、毎年1万冊を口途に除籍を行っていたが、近年では目標を下回る除籍数であり、最近の実績から除籍の遅れが指摘されている。現在、書庫の狭隘化が非常に大きな問題になっており、計画的かつ有効な除籍計画立案・実施を各部署に強く要請したい。

##### (2) 資産管理の適正化

図書館作成の図書原簿で資産計上する金額と、財務課で把握している図書費執行金額は本来一致するはずである。しかし、2006・2007年にかけて、図書原簿をもとに原簿データの遡及入力を行い、貸借対照表と図書館原簿データベースの金額の比較を行った結果、30億円以上の差異が生じていた。2007年の法定監査の際に、この金額の差異の問題を指摘されたが、いまだに完全な解決に至っていない。

この問題を解決するため、2014年度より図書館総務事務室のシステム、受入・雑誌、経理、電子、マンガ図書館の各担当者及び図書館総務事務長をメンバーとして資産管理MTを編成した。2016年度も適宜会議を開催し、法定監査による指摘事項を中心に、金額の差異の原因解明及びその対処方法について検討した。2016年度も2015年度に引き続き、単年度での図書館と財務課との資産金額の一致を目指し、調整を行ったが、完全一致には至らなかった。

なお、2011・2012年度に購入したクリスチャン・ポラックコレクションの整理が完了したことを受け、2017年3月21日に保留にしていた評価額（購入金額の均等割り）を所蔵データに投入した。

##### (3) 目録・装備業務委託

目録・装備委託業者は、2010年度に一斉に切り替わり7年目を迎えた。毎月定例会を開催し、実績報告、業務効率アップ、品質維持向上等について協議している。7年間の継続業務により、スキルが安定・向上し、新刊書だけでなく、各種コレクション整理の戦力ともなっている。しかし、委託業者が一斉に切り替わる可能性のある業務を安定させていくためには、職員のスキルも高くなければならない。業務委託への依存度が増す中、人材育成の課題が残る。

#### (4) 特色あるコレクションについて

(城市郎文庫, クリスチャン・ポラック コレクションは 1.7 ～ 1.8 を参照)

##### ●志田文庫

2014 年に公益財団法人損害保険事業総合研究所より寄贈された、本学第 5 代総長志田鉦太郎氏旧蔵書 2,937 冊 (和図書 1,713 冊 洋図書 1,224 冊) は、すでに生田図書館保存書庫に収蔵されている「志田文庫」約 6,300 冊を補完するものである。2016 年度は、和書 1,213 冊、洋書 842 冊計 2,055 冊の整理を行った。2017 年度も整理・装備作業を継続予定である。

##### ●西江雅之文庫

2015 年度に寄贈された文化人類学者西江雅之氏旧蔵書 (約 7,700 冊) を 7 月に保管先の生田キャンパスから図書館総務事務室に移送し「西江雅之文庫」(和泉図書館収蔵)として整理を開始した。2016 年度は洋書 601 冊、和書 1 冊の整理を行った。2017 年度も整理・装備作業を継続予定である。

##### ●トルコ文庫

永田雄三元文学部教授よりトルコ語図書の寄贈があり、167 冊を「トルコ文庫」として整理した。

##### ●アフリカ文庫

2016 年 3 月に「アフリカ文庫」(約 10,300 冊) が和泉図書館へ移管されたのに伴い、NII を含めて所蔵データの修正を行った。

#### (5) 特定課題推進費購入資料への対応

経常予算以外で購入された以下の資料の目録・装備を行った。

設置経費 国際日本学研究科 (165 冊)

グローバル・ガバナンス研究科 (98 冊)

#### (6) 図書受入・検収業務

図書予算減額の影響もあり、受入数は減少した。会計監査、内部監査で指摘があった業務フローの改善は、現行可能な範囲で全て適用し、順調に機能している。年度末から発生した、受入後未整理資料の紛失 (盗難の可能性が高い) については、永年潜在的に存在したセキュリティ不足の解消策実施が待たれる。

#### (7) 雑誌整理・受入業務

冊子体から電子媒体への移行や、公開されているものの受入中止などに伴い、雑誌受入数が若干減少した。NII 登録所蔵一括更新 (本年度は和雑誌) ほかの業務委託によるデータ整備も順調に実施している。

#### (8) システム関連業務

新人配属があり、一時的にシステム 3 名体制に戻ったが、秋に実施された人事異動で再び 2 名の体制に戻った。

2017 年 2 月に利用者用パソコンのリプレースを実施し、これまで中央・和泉・生田で別のシステムによって運用されていたものを統合した。これにより、管理の一貫性と移行時の費用・作業のコストを削減できた。また、中央・生田には、IC 学生証対応の PC ロッカーを増設し、和泉では既存のロッカーの IC カード対応をした。

システムチームの他部署協力については、継続してユビキタス e-learning (ユビキタス教育推進事務室) へ認証システムを提供をしている。大学全体の認証統合 WG へも参加し、新システム導入と図書館システムへの連携に協力した。

## 3.2 中央図書館事務室

中央図書館は、創立 120 周年記念事業の一環として新築され、2001 年 3 月 16 日に開館した。街と人の記憶に融合するよう設計され、美しい内観と充実した設備を持ち、2002 年日本図書館協会建築賞を受賞した。15 年経った今でもシンプルとモダンをコンセプトで装備された内装を保ち、アクセスしやすい都市型図書館として公開し、社会的責任を果たしている。業務体制は、専任職員 8 名（2016 年度 1 名減員）、短期嘱託 2 名、派遣 1 名、業務委託スタッフ 25 名（総合インフォメーション 3 名含む）、常駐業者 2 名計 38 名、学生アルバイト若干名で運営され、センター館の機能を担っている中央図書館は、他の図書館事務室と連携して蔵書体系や図書館リテラシー教育の拡充を推進した。2017 年度中に開館以来の延べ入館者が 1,400 万人日に達する見込みである。

### (1) 開館日数・入館者数・各種ガイダンス等

2016 年度の開館日数は、336 日(2015 年度 338 日)開館し、リバティタワーが入構制限となる入試期間中(2/4～2/17)は入館口を変更して 8 時半から 19 時まで開館した。入館者数は 586,454 人(2015 年度 645,278 人)で、一日約 1,800 人の入館者となった。貸出冊数は、163,093 冊(2015 年度 169,516 冊)だった。学生数が最も多く、地の利が良い場所で、社会に広く公開しているため、明治大学の 4 図書館の中で最も開館時間が多くなっている。ガイダンスは前年度とほぼ同様で実施した。大学院新入生オリエンテーション、文学部 3 年次ガイダンス、留学生オリエンテーション、新任教員ガイダンス、専門職大学院秋季入学者（留学生）ガイダンス、共同プログラム短期研修生ガイダンス、図書館ゼミツアー（総参加者数 719 人（2015 年度 620 人））、各種の情報検索講習会、ガバナンス研究科・グローバルビジネス研究科図書館ツアー、司書講習図書館ツアー、オープンキャンパス図書館ツアー等を実施し、「書評の書き方講座」、大学院生による論文相談会も開催した。図書館実習生（他大学）を受託指導し、第三期図書館サポーターを受入れ活動を支援した。

### (2) 施設・設備の保守・管理

貸出用パソコンのリプレイスを行った。1 階マルチメディアエリア、地下 1 階、ローライブラリーの各パソコンをすべて新しいものに変えた。これに伴い、館内のパソコンはすべて貸出用ロッカーに収納された。1 階 70 台、地下 1 階 70 台、ローライブラリー 8 台。施設面では、開館 15 年となり、老朽化による機器の修繕が各所で発生し、部品交換及び機器の入替等を行った。館内放送設備の部品交換（CD 再生機器）、マイクロ搬送機部品交換、ブックディテクションシステム（BDS）、防災管理点検作業、プレゼン設備保守点検等の定期点検のほか非常放送設備調査、マルチメディアエリアチェア 50 脚交換、等があった。その他、館内トイレのウォシュレット設置、事務用椅子の交換、コピー機更新が実施された。

### (3) 害虫対策について

2016 年 6 月に第 3 書庫内で害虫被害が発見され、急遽専門業者による現状調査を行った。被害は「時田ことわざ文庫」と装本（354 冊・棚 2 連分）に大きくあり、調査結果はシバンムシと判明した。緊急に被害の大きい「時田ことわざ文庫」と装本は外部でのガスくん蒸を実施し、返却後に虫の死骸や卵を資料から取り払う手作業を行った。第 3 書庫内は炭酸ガス噴霧を 4 回実施した。

また、虫害発生を契機に、貴重書庫の環境調査を実施した。結果、貴重書庫内においては概ね良好であったがヒラタチャタテ（カビを食べる虫）が入口付近で捕獲された。貴重書庫は 2007 年秋に改修し、その後調査等は実施していない。貴重な資料の保存に関して再度取扱いの周知徹底を行った。併せて、今後の定期的な予防と環境調査が必要である。

### (4) 中央図書館ギャラリー展示

中央図書館事務室 5 名、図書館総務事務室 2 名のワーキンググループで展示活動を行なった。教員や学内外関係者と連携し、メンバーが企画・渉外、解説・印刷原稿作成、列品、広報を担当し、第 63 回から第 66 回までの 4 回の展示会を開催した。初めての企画展示として「明治大学と作家たち」を提案した。展示タイトル

は p.21 「4 主要行事・イベント 中央図書館ギャラリー」参照。

#### **(5) 各種イベント等の開催**

利用マナー教育と読書推進活動のため、図書館オリジナルバッグのデザインコンテストを行ない、最多得票のデザインでバッグを作成し学生に提供した。3 館合同で英語力アップ講座を開催した。第 7 回図書館書評コンテストは、図書館活用奨励と優れた書評を顕彰し読書活動を推進することを目的に開催され、応募作は、選考部会の選考で受賞作が選定され、2017 年 1 月 31 日に表彰式を行なった。p.6 「2.14 書評コンテスト選考部会」参照。

#### **(6) ローライブラリーと法科大学院生・法学研究科院生の利用**

ローライブラリーは、法学部資料センターを改組し、法科大学院生専用図書室として 2004 年 4 月 5 日に研究棟地下 1 階にオープンした。蔵書数は約 15,000 冊を持ち、法律関係の図書、雑誌、判例集を所蔵している。2016 年度は、中央図書館の開館日数より 6 日間多い 342 日開館した。また、中央図書館に合わせ、8 台のパソコンがリプレイスされた。なお、法学研究科院生も学生証の提示で閲覧の利用ができる。

#### **(7) 国際交流への貢献**

次の図書館利用等を受入れた。ノースイースタン大学共同プログラム、タイ諸大学共同プログラム、西インドネシア大学共同プログラム、情報コミュニケーション学部短期学生交流プログラム、Meiji University Law in Japan Program、フィリピン デ・ラ・サール大学、情報コミュニケーション学部短期学生交流プログラム (丙)、日本語短期研修プログラム (夏期)、クールジャパンサマープログラム、Meiji University Law in Japan Program (再)、科学技術振興機構補助事業「さくらサイエンスプラン」、日本語短期研修プログラム (冬期)、国際交流基金関西国際センター、韓国大学訪日団等で昨年より微増した。

#### **(8) 防災関係の取組み**

2016 年 11 月 4 日に、総務課で実施したシェイクアウト訓練に参加した。中央図書館の非常用放送設備の不具合が発覚し修繕に至った。

2017 年 1 月から 3 月にかけて、東日本大震災時の東北地方の図書館被災状況写真と地震発生時の対処法ポスターを、書庫連絡通路及びギャラリー前で展示した。2017 年 2 月 24 日の図書館合同職場研修会において、ワークショップ「避難誘導体験及び書庫利用者検索体験」を行った。(参加約 35 名)

#### **(9) 中央図書館学生サポーター**

中央図書館の利用促進や学生の読書推進をめざすことを目的に、2014 年度より活動を開始し、3 年目を迎えた。2016 年度は途中からの参加者も含め 9 名の学生が参加した。学生による利用者目線でのイベントを企画から実施まで、中央図書館と協働で行った。また、ミーティング内において、図書館利用促進についての活発な議論を行った。イベント内容については、p.19 「4 主要行事・イベント 中央図書館学生サポーター」参照。

#### **(10) 懸案事項**

1 階フロアのマルチメディアエリアは、据置型デスクトップパソコンが無くなり様変わりした。パソコンロッカーの設置に伴い衝立の撤去も行い、広いスペースが確保された。今後エリア名も含めて、運用の変更を検討する必要がある。

### 3.3 和泉図書館事務室

開館5年目を迎えた和泉図書館では、2017年1月31日正午ごろ400万人日の入館者を迎えた。全国各地からの見学者は落ち着いてきており、2016年度は、32件、501名（開館以後累積385件、3,069名）の見学案内を行い、自由見学者は2,829人であった。また、これまでに受賞した日本図書館協会建築賞をはじめ8件の受賞のうち5件の賞状及び楯を展示した。

#### (1) 業務体制と人事政策

業務体制は、専任職員7名、嘱託職員1名、業務委託スタッフ20名で運営した。専任職員の1名は2016年度までJUSTICEに派遣中である。嘱託職員の契約が2016年5月で終了するため、新規契約者の募集と円滑な業務引き継ぎができるよう準備を進めた。

#### (2) 図書館リテラシー教育・ガイダンスの改善

図書館リテラシー教育をより多くの学生が受講できる機会を設けるため、2015年度に図書館リテラシー講座のWeb化を行った。Webコンテンツは、図書館ガイダンスを受講した学生の反復学習のために、また、図書館ガイダンスを受講できなかった学生の自学自習のために作成したものであるが、概要を簡潔にまとめているため、図書館ガイダンスでも試行的に取り入れた。その結果、ガイダンスの流れがわかりやすく、職員は効率よく説明ができ、学生の理解度に効果的であることが見えてきた。また、Web上でのアクセス回数は、それぞれ年間400回以上であった。現在、4種類のコンテンツであるが、さらにコンテンツを増やしていきたい。

これまで「レポートの書き方講座」、「プレゼンのコツ講座」とDVD上映会をそれぞれ行っていたが、レポート作成やプレゼン資料作成のための準備として図書館を活用できるよう「短期間でわかる！レポート準備講座」というテーマで、DVD上映と併せて開催した。春学期6月13日（月）～24日（金）、秋学期12月5日（月）～16日（金）のそれぞれ2週間ずつ開催した。

「大学院生によるレポートの書き方ナビゲーション」は、和泉教務事務室と連携し、春学期6月7日（火）～7月22日（金）、秋学期11月15日（火）～1月23日（月）にサーチアシストで実施した。

新入生に対するガイダンスでは、各学部新入生ガイダンスにおいて、図書館利用案内（約30分）を実施した。このほか、4月4日（月）～14日（木）にスタンプラリーを実施し、クイズに答えながら新入生が楽しく図書館を知るきっかけとしたり、フリーツアーを開催し、図書館利用案内を行った。

#### (3) 特設コーナーの改善と読書推進

2015年度に特設コーナーの運用について考え直し、目玉となるような図書をイベント的に配架し、ある程度期間が経過した図書を一般開架に戻したり、除籍するなどし、新たな図書をこのコーナーに配架するようにした。学生にとって、今関心のある図書を配架することで、読書推進や学習支援を行っている。

「教員お薦め本」コーナーの図書は、貸出も多く、学生に人気のコーナーとなっている。より多くの図書を配架するため、教員の協力が必須であるが、伸び悩んでいる。

実務・実用書コーナーでは、就職関係図書は就職キャリア事務室と連携し選書を行った。語学関係としては、英語学習の効果を高めるため、2階に設置している英語リーダーをこのコーナーに配架変更した。

#### (4) イベント・ギャラリー展示

イベント、ギャラリー展示については、別途全館まとめて記載しているので、そちらを参照されたい。2015年度に比べて英語関係、日本文化関係のイベントの参加数は振るわなかった。参加した学生には好評だったことから、次年度に向けて、広報、開催時期などに要因していないか検討が必要である。

#### (5) 館内サインの更新

館内の入れ替え可能な手作りサインを2014年度から改善検討し、2015年度に書架側板のサインを一新した。これに続けて、2016年度は、スタンド型サインを一新する計画で進めたが、まだ計画途中である。2017

年度に継続して行う。

#### (6) 杉並区図書館ネットワーク・世田谷区立図書館との連携

杉並区民・区内協定校のライブラリーカード発行枚数は 379 枚、世田谷区民のライブラリーカード発行枚数は 167 枚となり、いずれも前年度より増加している。2015 年度からライブラリーカード作成を必須としたが、トラブルは発生していない。

なお、地域住民の利用について、未返却のまま連絡が取れなくなるケースや、汚損の弁済に応じない利用者が年々増えてきているため、区立図書館と代理弁済等の対策を講じる必要がある。2016 年度は、杉並区図書館ネットワーク会議において協議を開始した。

杉並区図書館ネットワーク講演会

「ことばと文字とテクノロジー」

【日 時】 2016 年 10 月 22 日(土) 14:00～15:30

【場 所】 和泉図書館ホール

【講 師】 鈴木 哲也(法学部教授／副館長)

社会連携事業の一環として、杉並区及び世田谷区の中学校から職場体験学習を受け入れた。

### 3.4 生田図書館事務室

生田図書館は、緑豊かな多摩丘陵高台にある生田キャンパスの東側中央に位置する。同キャンパスでは、理工学部・農学部の授業・実験等の教育・研究展開により、学生が長時間キャンパスに滞在しており、その教育・研究支援並びに終日滞在型キャンパスライフスタイルの快適性・利便性支援の一翼を担うのが生田図書館である。よって、明治大学図書館 4 館の中で最も開館日数が多くなっている。生田キャンパスにおける図書館の来歴は次のとおりである。1951 年 3 月、旧陸軍登戸研究所本部の木造平屋建ての 1 室を転用した「農学部図書室」(翌年、図書館「生田分室」に改称)に始まり、1965 年 3 月、工学部の聖橋校舎から生田への移転後、学生・教職員等の規模拡大を受け、1970 年 4 月に「明治大学図書館生田分館」として構内の現在地に独立した 1 棟の建物で開館した。さらに 1988 年 4 月の増改築竣工を機に「明治大学生田図書館」と名称変更し、現在の建物外観となる。その後、阪神・淡路大震災後の数年に亘り実施された全キャンパス建物の耐震検査年度計画に基づき、1999 年に構造補強(耐震壁)工事を実施した。また、1995 年には図書館南側隣接面(農学部創立 50 周年記念庭園)地下に明治大学の現 4 図書館共通の図書・資料の保存庫である「生田保存書庫」(地下 2 層)が建設(併設)されている。

なお、2016 年度実施の生田図書館諸活動報告は以下の(1)～(7)を、また、蔵書数、開館・貸出状況、延床面積、座席数、施設規模等については項番号 7 各種データ、その他資料をご参照願いたい。

#### (1) 施設工事・環境整備

2015 年度に引き続き、老朽化した館内什器備品類(木製閲覧椅子、低書架及びブックリターンポスト)の更新を実施した。また、1 階閲覧室にガラリ窓を 2 ヶ所設置する換気口設置工事を実施した。これらの施策により、館内利用環境の改善が進んだ。防災対策として、2015 年度に引き続き、書籍落下防止装置の設置を進め、館内書架上段棚への設置がほぼ完了した。

生田保存書庫所蔵資料保存対策の一環として、年度末に、地下 2 階保存書庫の一部エリアを対象に除菌作業(専用掃除機を用いてのカビ取り、薬剤の噴霧)を実施した。

その他、大学法人部署主導により、正面玄関防犯カメラ設置、防犯用非常ベル・通報ボタン設置、館内トイレ全ブースの温水洗浄便座(ウォシュレット)設置が実施された。

## (2) 展示ギャラリーの運用

2016 年度は 11 件(学部・研究科等企画 7 件, 図書館企画 2 件, 他 2 件)の企画展示を開催した。内容は学部生・大学院生の成果作品発表, 教員・研究室の研究成果発表等。詳細は p.22 「4 主要行事・イベント 生田図書館ギャラリー「Gallery ZERO」」を参照。

## (3) ガイダンス及び図書館リテラシー教育の充実

4 月 1 日から 4 月 8 日まで行われた理工学部, 農学部の新入生指導週間行事日程の中で, 理工学部 2 回, 農学部 1 回の新入生図書館利用ガイダンスを実施し, 4 月 4 日には新任教員図書館利用ガイダンスを実施した。新入生歓迎行事の一環として, 4 月 1 日～18 日まで館内で行ったスタンプラリーには計 23 名が参加した。次に年間を通じてのリテラシー教育活動として, 16 回のゼミガイダンス(含・グループガイダンス, 出前講義)に計 264 名が参加した。なお, 2016 年度も農学部からの依頼により, 食料環境政策学科の初年次教育科目「基礎ゼミ」(受講者 137 名), 及び農学科の「農学基礎実験」(受講者 123 名)にそれぞれ図書館職員 4 名を派遣し, 「図書館利用法と新聞記事検索演習」, 「図書館を活用したレジュメ・レポート作成と文献検索演習」の 2 コマ計 8 回の出張講義を行った。

## (4) 学習用図書選書

生田図書館運営の柱である「読書支援」「利用者目線」を反映させた選書を行った。前年並みの予算を受け, 2016 年度も引き続き継続図書の見直しを行い, 他館との重複購入を避けるなどの節約選書に努めた。

一方で生田図書館運営の柱である「読書支援」「利用者目線」については, 日々の話題や新聞書評欄, 書店・出版社のホームページ等で情報を集め, 話題作は購入した。

## (5) 特集コーナーの企画

期間ごとに設定したテーマについて関連資料を新着図書コーナー隣の書架に配架し, 利用者に読書に親んでもらう機会とした。2016 年度は以下の 8 企画を実施した。

- |                           |                  |
|---------------------------|------------------|
| 1 甘いお話                    | 4/1(金)～5/12(木)   |
| 2 図書館 de 留学 勇気とやる気が未来を変える | 5/13(金)～6/16(木)  |
| 3 coffee or tea?          | 6/17(金)～7/18(月)  |
| 4 夏読! スタッフおすすめ本           | 7/19(火)～10/2(日)  |
| 5 ものづくりニッポン               | 10/3(月)～11/8(火)  |
| 6 なぜ, 特集                  | 11/9(水)～12/15(木) |
| 7 デザイン千思万考                | 12/16(金)～1/26(木) |
| 8 スタッフおすすめ本 Winter        | 1/27(金)～3/31(金)  |

## (6) 読書のススメ(話題の本)コーナーの企画

新聞見出しに頻出する記事や web での話題から生田図書館の蔵書をピックアップし, 学生の読書へのきっかけを提供した。2016 年度は以下の 22 企画を実施した。

- |                  |       |
|------------------|-------|
| 1 鉄道&旅の本         | 4/1～  |
| 2 人工知能           | 4/15～ |
| 3 五月病を楽しく防ごう!    | 5/2～  |
| 4 伊勢志摩サミット       | 5/16～ |
| 5 時間と時計          | 6/1～  |
| 6 夏越の祓           | 6/16～ |
| 7 選挙へ行こう         | 7/1～  |
| 8 熊本・大分応援        | 7/15～ |
| 9 リオデジャネイロオリンピック | 8/1～  |

- 10 水資源を考える 8/26 ～
- 11 THE MANGA 9/13 ～
- 12 アメリカ大統領選挙 9/30 ～
- 13 ノーベル賞 10/14 ～
- 14 バーチャルリアリティの世界 10/31 ～
- 15 流行語大賞 11/16 ～
- 16 夏目漱石没後 100 年 12/1 ～
- 17 大河ドラマ 12/19 ～
- 18 祝 新成人！自分を磨く 20 代 1/13 ～
- 19 St.Valentine's Day 2/1 ～
- 20 東京マラソン直前！マラソン・ランニング特集 2/16 ～
- 21 村上春樹 3/1 ～
- 22 球春到来 3/16 ～

### (7) 川崎市図書館との相互協力

2014 年 1 月に川崎市立多摩図書館長の呼びかけで始まった多摩区 3 大学図書館(明治, 専修, 日本女子大学)・川崎市立多摩図書館連携状況連絡会議は, 2016 年度は以下の 2 回が開催され, 各図書館の近況並びに地域連携の現状が披露された。

7 月 6 日(水) 会場：川崎市立多摩図書館

3 月 7 日(火) 会場：明治大学生田図書館(生田図書館並びに保存書庫見学会開催)

2016 年度も多摩区広報などへのギャラリー ZERO 展示のお知らせ掲載や多摩図書館から 川崎市民への積極的な広報もあり, 入館者数は前年度とほぼ横ばいの約 5,000 名を維持しており, 生田図書館の地域連携は成果を伴いながら定着してきている。図書館を利用する川崎市民が, ギャラリー見学やココスパへ参加することも珍しくない。2012 年度からの統計推移は以下のとおりである。

|        | 2012 年度 | 2013 年度 | 2014 年度 | 2015 年度 | 2016 年度 |
|--------|---------|---------|---------|---------|---------|
| LC 作成数 | 58 名    | 70 名    | 47 名    | 67 名    | 49 名    |
| 入館者数   | 3,788 名 | 3,668 名 | 4,748 名 | 5,240 名 | 5,032 名 |
| 貸出冊数   | 2,452 冊 | 2,689 冊 | 2,506 冊 | 2,534 冊 | 2,147 冊 |

## 3.5 中野図書館報告

2016 年度は中野図書館開館から 4 年目で, 総合数理学部が 4 年生まで揃い, 中野キャンパス学生数は 2015 年度の約 2,700 名から約 3,100 名に増加した。

蔵書数は, 2015 年度末は 45,854 冊であったが, 1 年後に 47,861 冊を数えた。生田保存書庫への 3,115 冊の移転があったので, 新着図書との差引の結果である。中野図書館の収容可能冊数は棚板総延長から算出したところ 51,900 冊である。2017 年度も同じくらいの新着図書が入ると満杯ということになるが, 学習用図書予算が 3 割減っているので多少の猶予があろう。

延べ入館者数に大きく影響したのは, 2016 年 10 月からのリバティアカデミー会員の中野図書館利用停止である。リバティアカデミー会員の入館者数はちょうど 2015 年度の半分程度 2,592 名であった。学生の入館者数は学生数が増えたのに対してトータルで 900 名ほど減少となった。原因はよくわからない。年度ごとのばらつきの範囲内なのか, それとも施設の規模が変わらず, 入館の動機を特に増やすような図書館側の働きかけがなければ, 同じくらいの入館者数になる傾向があるのだろうか。

### (1) 開館運営状況



2016年度の開館日数は341日(2015年度は342日)で、延べ入館者数は142,018名であった(前年度比9.7%減)。貸出冊数は41,723冊であった(前年度比10.2%増)、毎年増加が続いている。学生1人あたり平均貸出冊数をみると約12冊で2015年度より1冊減った。他キャンパスからの配送件数は引き続き同程度で13,867件あった(生田保存書庫分を除く、2015年度は13,946件)。

## **(2) 蔵書について**

2016年度中野図書館学習用図書予算で購入した図書は3,737冊で、2015年度に比べて226冊減だった。設置経費図書購入は、国際日本学研究科165冊であった。英語リーダーは利用頻度が高いので、毎年ピアソンリーダー(Hペンギン)のレベル2～4を購入してきたが、今回はレベル5～6も購入した。教員から推薦のあった“Cambridge Experience Readers”(25冊)、McGraw-Hill Education, “Choose Your Own Adventure”(30冊)も購入した。

2017年2月下旬に生田保存書庫への図書移転を行った。対象は開館前に準備した中野図書館基礎図書と呼ばれた図書(2011年度に和泉、生田図書館で購入した図書から選書・購入)のうち、貸出回数が2回以下のものを抽出した3,115冊である。

除籍冊数は、865冊であった(簿外を含む)。

## **(3) 各種ガイダンス・イベント等の実施**

2016年度、各種ガイダンスでは「オンラインで英語多読」を新規に実施した。電子ブック英語リーダーの紹介を昼休みにする企画だったが、参加はかんばしくなかった。また、「業界・企業研究データベース講習会」は2016年度も就活時期に合わせて3月上旬に3日間実施し、参加者合計は11名であった。

イベントとしては、としょかん福ぶくろ(図書館バックにスタッフが選んだテーマ本を入れる)配布などを実施した。

読書・貸出推進としては引き続き、オススメ本棚にスタッフや学生がテーマを決めて関連図書の展示を通年行った(計17回)。「図書たより」を15号から21号まで発行した。

## **(4) 最後に**

新年度の授業が始まって、2015年度同様、平日午後はほぼ満席の時がある。とはいえ、入館者数はもう頭打ちの感が強い。直面している問題は現在も変わらない。

中野キャンパス第2期整備計画に関しては、中野キャンパス運営委員会に建物検討専門部会が設置された。その進展に期待する。図書館側でも新規委員会の準備が始まった。

中野図書館では、引き続き、限られた蔵書数で充実度を高めること、電子資料の利用促進、学生のアカデミックスキル向上への寄与、各種イベントの実施などに力を入れていきたい。